

## 市立千歳市民病院の概要

## 1 沿革

昭和 22 年 1 月	元千歳海軍航空隊の営外酒保であった敷地、建物を利用して「日本医療団千歳病院」として開院
昭和 23 年 8 月	日本医療団から移管されて「道立千歳病院」となる 病床数 50 床、診療科目（内科、外科、産婦人科、物療科）
昭和 41 年 4 月	結核予防法指定医療機関
昭和 42 年 4 月	道から移管されて「千歳市立病院」となる 病床数 132 床、診療科目（内科、外科、小児科、産婦人科、整形外科、耳鼻咽喉科） 生活保護法指定医療機関 原子爆弾被爆者の一般疾病医療機関 保険医療機関 療養取扱機関
昭和 42 年 7 月	労災保険指定医療機関 内科、小児科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、整形外科（45. 7. 1 認定）
昭和 42 年 8 月	救急病院告示承認
昭和 45 年 4 月	児童福祉施設千歳市助産施設
昭和 45 年 11 月	更生医療を担当する医療機関：整形外科に関する医療（身障福祉法 19 条）
昭和 47 年 5 月	眼科、皮膚科、泌尿器科を開設、病床数 200 床の認可を得る
昭和 51 年 3 月	病院増改築工事完成 総合病院の名称承認
昭和 52 年 11 月	基準寝具設備の承認（病衣貸与） 運動療法等の施設基準
平成 2 年 4 月	麻酔科開設
平成 4 年 8 月	結核病棟（29 床）を廃止 一般病床 171 床

平成 6 年 4 月	泉郷診療所開所
平成 6 年 10 月	新看護料基準承認 (2.5 : 1 看護基準)
平成 7 年 8 月	短期人間ドック開始
平成 7 年 9 月	一部診療 4 科 (小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科) による院外処方箋発行業務実施
平成 11 年 2 月	院外処方箋の拡大 (外科、整形外科、産婦人科)
平成 11 年 11 月	院外処方箋の拡大 (泌尿器科、麻酔科)
平成 12 年 4 月	支笏湖診療所が市から病院へ移管
平成 12 年 6 月	内科予約診療開始
平成 12 年 10 月	小児科救急夜間診療開始 (週 3 回、月・水・金曜日)
平成 13 年 10 月	脳神経外科開設 心臓ドック開始
平成 14 年 9 月	新築移転し「市立千歳市民病院」となる 救急特例病床 19 床許可 循環器科開設 人工透析センター開設 小児救急夜間診療の拡大 (週 5 日、月から金) 全科院外処方箋発行業務実施
平成 15 年 2 月	脳ドック開始
平成 15 年 10 月	消化器科開設
平成 17 年 7 月	地域医療連携室設置
平成 18 年 12 月	病院機能評価認証取得
平成 20 年 7 月	7 : 1 看護基準導入
平成 21 年 3 月	電子カルテ運用開始

## 2 施設等

開設年月日	昭和 42 年 4 月 1 日
許可病床数	190 床（一般病床 171 床、救急特例病床 19 床）
診療科目 （13 科）	内科、循環器科、消化器科、小児科、外科、脳神経外科、整形外科、 産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科
各種指定	救急告示病院（19 床）、臨床研修指定病院
敷地面積	35,165 m <sup>2</sup>
延床面積	18,755 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造 4 階建・免震構造
付属施設	泉郷診療所、支笏湖診療所、医療従事者住宅（4 棟 13 戸）、 院内保育所（定員 40 人）
その他関連施設	千歳訪問看護ステーション、北光在宅介護支援センター

## 3 病院理念及び基本方針

### 【病院理念】

より質の高い 心あたたまる医療の実現

### 【基本方針】

- 1 患者様の人権を尊重し、十分な説明と同意のもとに安全で良質な医療をめざします。
- 2 地域の基幹病院として医療機関との連携を促進し、地域医療の向上に努め、地域住民の健康維持に貢献します。
- 3 救急医療と小児医療及び周産期医療の充実を図り、地域住民が安心できる医療を提供します。
- 4 自治体病院として公共性を保ち、効率的な病院経営に努めます。
- 5 職員は専門職としての誇りと目標を持ち、常に研鑽して知識と技術の向上に励み、チーム医療を推進します。
- 6 働きがいのある職場として環境を整備し、明るい病院づくりをめざします。

#### 4 職員数

(単位：人)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
医師	27	27	28	29	31	30	31
助産師	11	12	9	7	13	13	13
看護師	108	123	139	141	140	137	146
准看護師	13	13	12	10	10	8	6
薬剤師	7	6	6	6	6	6	6
放射線技師	6	6	7	7	7	7	7
検査技師	7	7	7	7	7	7	7
理学療法士	3	4	4	4	4	4	4
臨床工学技士	2	2	3	3	3	3	4
視能訓練士	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士	2	2	2	2	2	2	2
診療情報管理士	—	1	1	1	2	1	2
医療ソーシャル ワーカー	—	—	—	—	2	2	2
事務職員	14	14	19	20	18	19	19
合計	201	218	238	238	246	240	250

\*各年度 10月1日現在

#### 5 主要機器

磁気共鳴画像診断装置 (MRI)	64列マルチスライス CT 装置
血管造影撮影装置	乳房 X線撮影装置
多目的 X線テレビ装置	高圧酸素治療装置
大動脈バルーンポンプ	超音波血管内視鏡装置
核医学検査装置 (RI 装置)	超音波診断装置
体成分分析測定装置	紫外線治療器
高度集中治療用サブライユニット	手術用顕微鏡
マルチカラーレーザー光凝固装置	無散瞳眼底カメラ
外科用イメージ装置	透析患者監視システム
単純生血管腫治療レーザー	超音波白内障乳化吸引装置
筋機能評価訓練システム	超音波内視鏡システム
X線骨密度測定装置	人工透析装置
造影剤自動注入システム	血小板凝集能自動測定装置
内視鏡的切除システム	高周波手術装置
総合呼吸機能自動解析システム	遠隔画像診断システム

## 6 診療実績

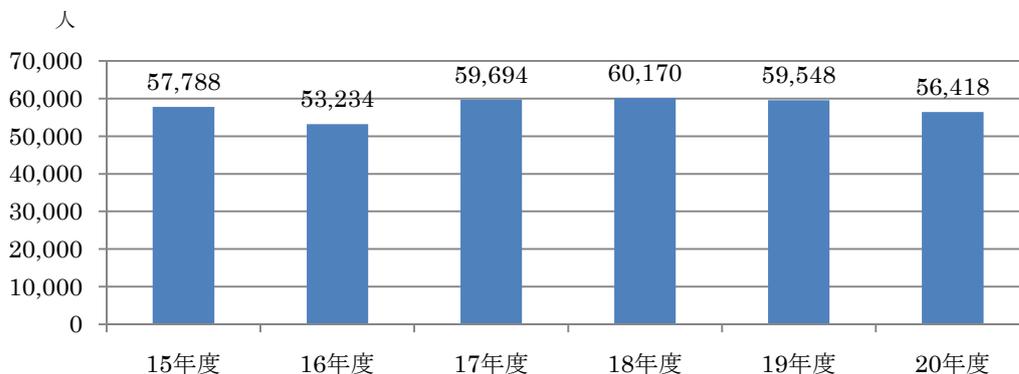
### (1) 入院患者数

入院患者総数は、年度で多少の増減はあるものの、概ね6万人前後で推移しています。

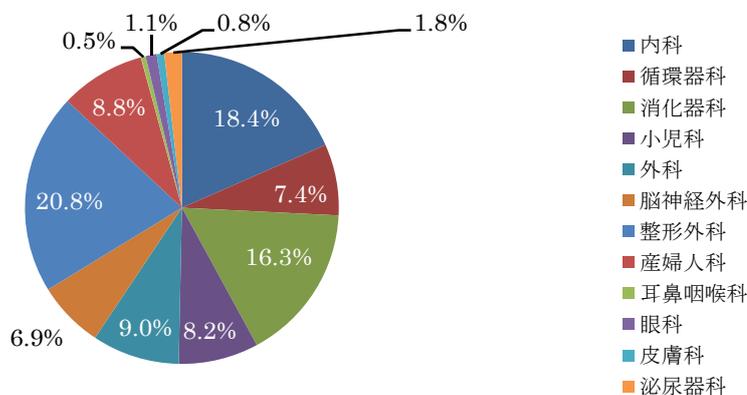
産婦人科は、平成15年度に2名いた常勤医師が退職し、平成16年度は常勤医師が不在となった影響により大幅に減少していますが、平成17年度以降は常勤医師1名を確保しています。

また、耳鼻咽喉科は、平成18年度途中から常勤医師が不在となりましたが、平成20年度は常勤医師1名を確保しています。

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	(単位：人) 20年度の構成割合
内科	13,766	11,019	10,936	13,483	11,684	10,358	(18.4%)
循環器科	4,375	5,209	5,551	6,017	5,269	4,184	(7.4%)
消化器科	4,434	10,548	10,927	8,816	8,949	9,201	(16.3%)
小児科	5,573	4,121	4,394	4,429	4,305	4,649	(8.2%)
外科	4,733	6,980	6,293	4,975	5,611	5,074	(9.0%)
脳神経外科	3,592	3,518	4,167	3,493	4,188	3,904	(6.9%)
整形外科	10,262	7,049	9,315	10,396	11,303	11,711	(20.8%)
産婦人科	7,782	1,068	4,009	5,186	5,408	4,966	(8.8%)
耳鼻咽喉科	712	686	782	278	1	276	(0.5%)
眼科	1,266	935	1,148	1,102	1,162	634	(1.1%)
皮膚科	26	181	330	218	279	455	(0.8%)
泌尿器科	1,267	1,920	1,842	1,777	1,389	1,006	(1.8%)
麻酔科	0	0	0	0	0	0	(0.0%)
合計	57,788	53,234	59,694	60,170	59,548	56,418	(100.0%)



### <平成20年度診療科別構成割合>



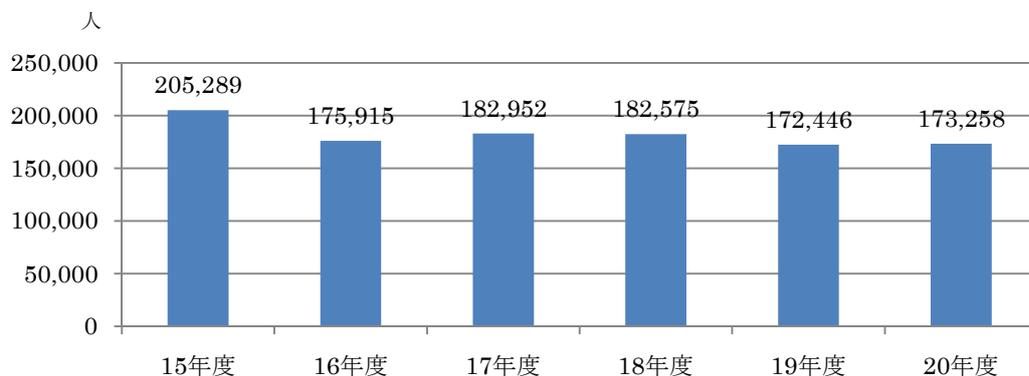
## (2) 外来患者数

平成20年度の患者数は、前年度と比べ0.5%増の173,258人となっており、1日平均患者数は710.1人で市民病院と同規模の100床から199床の病院の全国平均287人、200床から299床の病院の全国平均436人を大きく上回っている状況にあります。

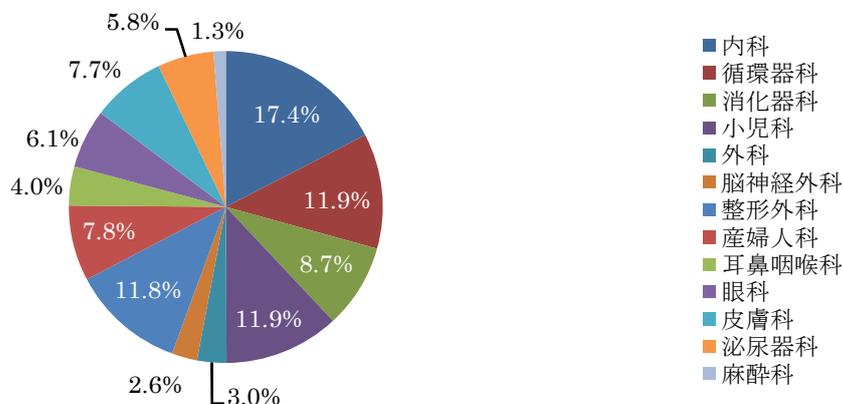
診療科別では、循環器科が増加しているものの、眼科、皮膚科が減少傾向にあります。

産婦人科及び耳鼻咽喉科の患者数の大幅な減少は、入院と同様に常勤医師の不在が要因となっています。

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	20年度の構成割合
内科	43,939	30,553	31,270	32,061	31,249	30,085	(17.4%)
循環器科	15,711	17,094	18,748	19,437	20,064	20,694	(11.9%)
消化器科	5,664	15,174	16,247	14,908	14,043	15,128	(8.7%)
小児科	30,684	25,414	26,056	26,404	22,376	20,616	(11.9%)
外科	5,828	5,985	5,567	5,519	5,191	5,211	(3.0%)
脳神経外科	4,836	4,481	5,045	4,546	4,759	4,525	(2.6%)
整形外科	28,096	20,560	17,470	18,558	19,241	20,388	(11.8%)
産婦人科	17,856	5,275	7,870	9,202	11,704	13,541	(7.8%)
耳鼻咽喉科	11,265	10,788	10,570	9,441	5,335	7,026	(4.0%)
眼科	14,683	13,732	14,539	14,075	12,192	10,589	(6.1%)
皮膚科	16,236	15,399	16,908	16,237	13,677	13,270	(7.7%)
泌尿器科	7,597	8,854	9,716	9,597	9,869	9,994	(5.8%)
麻酔科	2,894	2,606	2,946	2,590	2,746	2,191	(1.3%)
合計	205,289	175,915	182,952	182,575	172,446	173,258	(100.0%)



<平成20年度診療科別構成割合>



### (3) 救急患者数

平成20年度の患者数は、入院、外来とも前年度より減少しており、外来患者数は過去5年間で最も少ない患者数となっています。



### (4) 手術件数

平成20年度の手術件数は、過去6年間で最も多い1,297件となっており、整形外科と産婦人科で平成15年度以降最多の手術件数となっています。

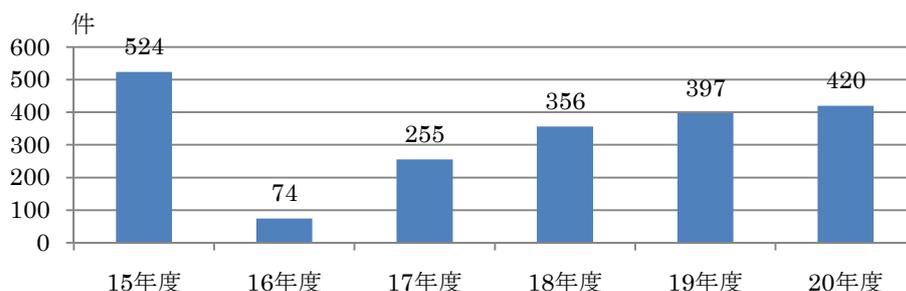
産婦人科及び耳鼻咽喉科の件数の減少は、患者数と同様常勤医師の不在が要因となっています。(単位：件)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
外科	194	324	301	258	274	236
脳神経外科	71	50	60	48	61	49
整形外科	307	411	321	379	252	454
産婦人科	238	43	208	236	294	315
耳鼻咽喉科	63	82	80	33	0	0
眼科	173	133	147	153	189	174
皮膚科	15	0	4	14	0	0
泌尿器科	116	78	82	75	65	69
合計	1,177	1,121	1,203	1,196	1,135	1,297

### (5) 分娩件数

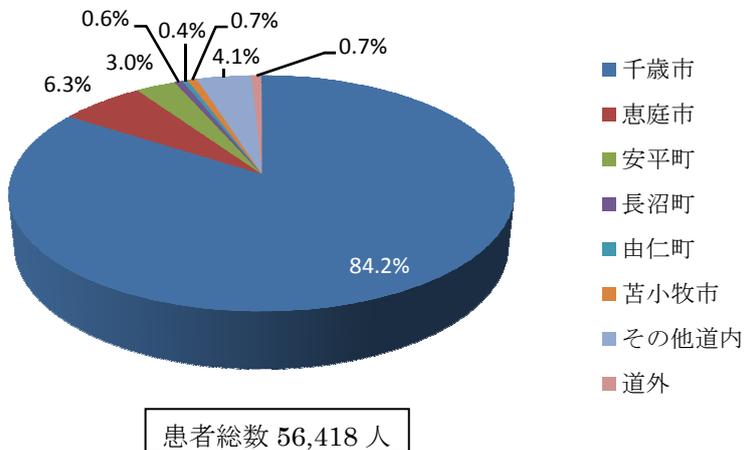
平成15年度は常勤医師2名により分娩を取り扱っていましたが、平成16年度は産婦人科の常勤医師が不在となったため、分娩件数は大幅に減少しています。

しかし、分娩を取り扱う常勤医師1名を確保できた平成17年度以降は、分娩件数は増加しています。



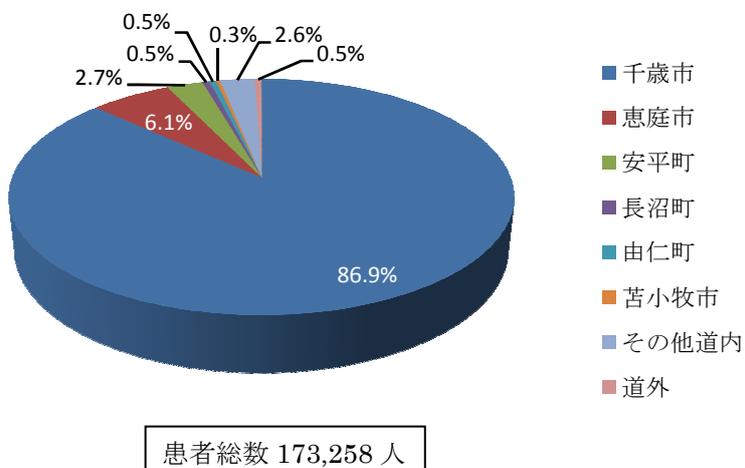
## 7 地域別患者構成（平成 20 年度）

### <入院>



千歳市	84.2%
恵庭市	6.3%
安平町	3.0%
長沼町	0.6%
由仁町	0.4%
苫小牧市	0.7%
その他道内	4.1%
道外	0.7%

### <外来>



千歳市	86.9%
恵庭市	6.1%
安平町	2.7%
長沼町	0.5%
由仁町	0.5%
苫小牧市	0.3%
その他道内	2.6%
道外	0.5%

## 8 決算推移

### <収益的収支>

							(単位：千円)
区 分		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
収入	1 医業収益	4,252,421	4,049,797	4,500,490	4,436,810	4,358,311	4,466,604
	(1) 料金収入	3,698,864	3,581,289	3,982,687	3,888,687	3,787,044	3,894,582
	入院収益	2,420,440	2,387,532	2,691,675	2,590,299	2,496,669	2,574,028
	外来収益	1,278,424	1,193,757	1,291,012	1,298,388	1,290,375	1,320,554
	(2) その他収益	553,557	468,508	517,803	548,123	571,267	572,022
	うち他会計負担金	335,882	312,081	329,815	337,095	331,858	323,010
	2 医業外収益	333,761	464,927	457,882	468,969	493,898	531,137
	(1) 他会計負担金・補助金	316,006	443,586	436,830	446,876	460,528	502,809
	(2) 国(道)補助金		3,600	4,726	3,866	4,093	3,058
	(3) その他	17,755	17,741	16,326	18,227	29,277	25,270
経常収益		4,586,182	4,514,724	4,958,372	4,905,779	4,852,209	4,997,741
支出	1 医業費用	4,413,300	4,643,528	4,941,711	4,910,494	4,809,312	4,821,920
	(1) 職員給与費	1,927,578	1,973,691	2,045,410	2,112,301	2,098,589	2,177,916
	(2) 材料費	967,241	1,091,225	1,249,227	1,121,965	1,049,831	1,026,774
	(3) 経費	880,431	951,413	1,010,533	1,035,623	1,037,048	1,024,512
	(4) 減価償却費	612,490	609,852	614,598	617,166	602,677	549,552
	(5) その他	25,560	17,347	21,943	23,439	21,167	43,166
	2 医業外費用	367,821	392,660	422,328	405,527	389,869	382,720
	(1) 支払利息	187,264	186,402	183,084	179,193	174,289	168,695
	(2) その他	180,557	206,258	239,244	226,334	215,580	214,025
	経常費用		4,781,121	5,036,188	5,364,039	5,316,021	5,199,181
経常損益		▲ 194,939	▲ 521,464	▲ 405,667	▲ 410,242	▲ 346,972	▲ 206,899
特別損益	1 特別利益	2,684	1,785	6,761	6,810	8,649	1,712
	2 特別損失	35,020	34,815	34,743	35,587	38,120	34,715
	特別損益	▲ 32,336	▲ 33,030	▲ 27,982	▲ 28,777	▲ 29,471	▲ 33,003
純損益		▲ 227,275	▲ 554,494	▲ 433,649	▲ 439,019	▲ 376,443	▲ 239,902
累積欠損金		259,175	813,669	1,247,318	1,686,337	2,062,780	2,302,682
内部留保資金		1,666,609	1,428,588	1,352,812	1,141,265	863,145	933,951

## 9 病院機能評価について

### (1) 病院機能評価

病院機能評価は、第三者機関として設立された財団法人日本医療機能評価機構が、書面審査及びいずれも病院長や看護部長、事務部長などを5年以上勤めたことのある医療に精通した複数のサーベイヤーと呼ばれる調査者による訪問審査を行い、医療施設の機能を学術的な観点から中立的な立場で評価し、その改善を支援するもので、すべての評価項目で一定の基準を満たす医療施設に認定証が発行されるものです。

### (2) 評価項目

評価項目は、「病院の運営組織と地域における役割」や「患者の権利と安全確保の体制」など6つの専門領域にわたる55の大項目があり、162の中項目、532の小項目ごとに評価されます。

評価内容は、「医療安全」、「患者の権利」に関することをはじめ、「待ち時間を短くすること、待つことの苦痛を和らげる努力と工夫をすること」など、病院機能評価に取り組むことで患者さんに満足される医療サービスの提供が図られる内容となっています。

#### (領域別評価項目数)

	(大項目数)	(中項目数)	(小項目数)
第一領域 「病院の運営組織と地域における役割」	10	20	59
第二領域 「患者の権利と安全確保の体制」	6	15	43
第三領域 「療養環境と患者サービス」	7	23	88
第四領域 「医療提供の組織と運営」	18	54	177
第五領域 「医療の質と安全確保のためのケアプロセス」	8	26	76
第六領域 「病院運営管理の合理性」	6	24	89
	55	162	532

### (3) 認定証交付までの主な経過

- ①平成16年6月22日 キックオフ宣言
- ②平成16年6月22日 医療機能向上委員会、第1～第6領域部会の設置
- ③平成17年11月1日 受審申込
- ④平成18年7月28日 書面調査書の提出
  - ・「病院機能の現況調査書」、「書面審査自己評価調査票」、「病院資料」を提出
- ⑤平成18年10月25日～28日 訪問審査
  - ・診療、看護、事務部門各1名とリーダーのサーベイヤーが病院を訪問し、3日間審査が行われました。
- ⑥平成18年12月18日 財団法人日本医療機能評価機構での評価委員会における審議(認定)
- ⑦平成18年12月27日 認定証交付通知

#### (4) 主な取り組み

- ①組織や基本方針、安全管理・医療行為の手順の見直し、286 ファイルのマニュアル等の整備を行いました。
- ②患者様の人権を尊重するとともに、患者様の理解を得ながら十分な説明と同意の手続きを進めるため、治療や検査別に 96 の説明と同意書を新たに整備しました。

#### (5) 認定状況

訪問評価後、すべての評価項目で基準を満たす医療施設に認定証が発行されます。一方、1項目でも満たない場合は、財団法人日本医療機能評価機構の指導のもとさらに改善をすすめ、基準を満たさない項目について再度審査を受けることとなります。

訪問審査後、直ちに認定証が発行される医療機関は約 17%であり、認定基準は非常に難易度の高いものとなっております。

##### ①認定状況

	全国	全道	道内市立病院
全病院数	8,832	600	31
認定病院数	2,530	128	(注) 10
認定率	28.6%	21.3%	32.2%

(注) 道内の認定市立病院

市立札幌病院 (810 床)、市立旭川病院 (592 床)、市立名寄総合病院 (469 床)、江別市立病院 (408 床)、留萌市立病院 (354 床)、滝川市立病院 (400 床)、砂川市立病院 (535 床)、市立函館病院 (834 床)、市立室蘭総合病院 (609 床)、市立千歳市民病院 (190 床)

##### ②バージョン 5 での認定病院

病院機能評価の評価項目は、医療技術の進歩や患者の要求の変化に応じ一定時期にバージョンが見直しされ、平成 17 年 7 月申込審査からバージョン 5 で審査されています。

評価の基準もバージョンの変更とともに厳しくなっており、道内の認定市立病院のうちバージョン 5 での認定は、市立函館病院に次ぎ当院が 2 番目、続いて市立室蘭総合病院、江別市立病院、市立札幌病院の 5 院となっております。

## (6) 各領域における主な評価項目

### 第一領域 「病院の運営組織と地域における役割」

- ・地域における病院の役割・機能が明確になっている
- ・業務の効率化と経営改善に向けた取組みに指導力を発揮している
- ・組織運営が計画的になされている
- ・情報管理機能が整備されている

### 第二領域 「患者の権利と安全確保の体制」

- ・患者の権利に関する方針が明確である
- ・患者に説明をして同意を得る手順が明確である
- ・安全確保や病院感染管理のための体制が確立している

### 第三領域 「療養環境と患者サービス」

- ・患者・家族の声に耳を傾ける努力がなされている
- ・患者のプライバシーが確保されている
- ・療養環境の整備体制が確立している

### 第四領域 「医療提供の組織と運営」

- ・診療部門の責任・管理体制が確立している
- ・診療および業務上の指針・手順が確立している
- ・診療の質を改善するための仕組みがある

### 第五領域 「医療の質と安全のためのケアプロセス」

- ・臨床における倫理的問題について対応している
- ・適切な評価と計画を経て、投薬・注射などを確実・安全に実施している
- ・栄養管理と食事指導が適切である
- ・患者にとって苦痛で不快な症状や疼痛等の症状緩和に努めている

### 第六領域 「病院運営管理の合理性」

- ・人事管理の体制が整備されている
- ・経営改善の努力がなされている
- ・施設・設備の管理体制が確立している
- ・大規模災害発生時の対応体制が整っている



# 平成21年度市立千歳市民病院会議・委員会等組織図

〈平成21年4月1日現在〉

